

Ⅲ 令和5年度 東京都立羽村特別支援学校 学校経営報告

I 今年度の取組みと自己評価

別紙、「令和5年度学校経営計画重点目標と方策の評価」参照
関連する項目において子供・保護者・地域に対する
「シンプル」→「伝わる・わかる」→「つながる」→「安心」を目指した。

- 1 児童生徒の健康・安全について
 - (1) 遊出・行方不明捜索方法のさらなる改善と捜索情報共有ツールの活用を充実させた。
 - (2) 安心を軸とし、実際に想定した避難訓練を実施した。
 - (3) 地域と連携した宿泊防災訓練を実施し地域から20名の訓練参加があった。
 - (4) 児童・生徒のからだづくりに資するため、外部専門家PTの時間数を増やし活用した。
 - (5) 安全な医療的ケアの実施を目指し、医療的ケア安全委員会を開催した。
 - (6) アンガーマネジメント研修を行うことにより、全教職員の人権感覚を向上させた。
 - (7) 人権に配慮の足りない指導や行き過ぎた指導に対して、小さな芽も見逃さず報告を徹底し、個人指導を行った。
 - (8) 少年センターや学校法律相談デスクを活用し、警察、福祉課等と十分に連携して健全育成の取り組みを行った。
- 2 児童・生徒の学びについて
 - (1) 新しい時代の教育課程【羽村の学び】(シラバス)を活用し、特に生活単元学習や国語、数学等の授業力を向上させた。
 - (2) Teamsを活用し、オンライン授業が可能な御家庭を7割以上とした。手作り教材ライブラリーの充実と、共用教材の充実を図り、児童・生徒の授業内における待ち時間を減らす取り組みを推進した。
 - (3) 高等部卒業生に対する企業就労内定率を37%として、昨年水準を上回った。
 - (4) 高等部企業就労希望者に対する内定率を96.5%として、目標を上回った。
 - (5) 高等部福祉就労希望者に対する福祉就労内定率は84.5%であった。地域と連携した取り組みについて20回以上実施した。
 - (6) 特に重度・重複学級生徒による社会貢献の取り組みを活性化させ目標を上回る49回の実施があった。
 - (7) 部活動を充実させ、サッカー大会やバスケットボール大会において好成績を収めた。
- 3 地域支援について
 - (1) 松林小学校、羽村高校との連携を強め、児童・生徒のより実質的な交流の土台を固めた。
 - (2) 団地やショッピングセンター等の地域資源との連携を強め、より有機的な交流や社会貢献に向けた土台を固めた。
- 4 組織体制について
 - (1) デジタル化された情報をオンラインで活用することを推進し、個人情報紛失事故を防いだ。
 - (2) 保護者向けプリントを改善し、シンプルな表現やわかりやすい表現を目指した。
 - (3) 定時外勤務時間について、45時間以内の教職員の割合を89%として、長時間勤務者を減らすことができた。
 - (4) 男性教員の育児休業取得を推進し、次年度も一年間取得する見込みの男性職員がいる。

II 学校評価アンケートの実施結果

学校評価アンケートの回収率 保護者：52.2%

- アンケート回収率の低下について
今年度については、別アンケートにて、提出の有無について記名式で回答してもらうことにより、提出のお願いができるようにし、アンケート回収率80%以上を目指したが、提出アンケートの活用、提出の再依頼について徹底できず、アンケート回収率の低下を招いた。
- 1 学校評価アンケート結果
学校評価アンケートからみた次年度の方向性は以下のとおりである。
 - (1) 学習指導
 - (ア) 教科学習の指導の充実。
 - (イ) 地域社会と連携した地域資源を活用した学習活動の充実。
 - (2) 組織体制
 - (ア) 感染症拡大防止対策等、わかりやすい適切な情報発信。
 - (イ) 教育公務員として、ふさわしい態度の徹底。
 - (3) 安全・生活指導
 - (ア) 安全管理についての、保護者に対する丁寧な説明。
 - (イ) 人権に配慮された指導、体罰防止の徹底
 - (4) 進路指導
 - (ア) 小中学部におけるライフキャリアの取り組みの充実。
 - (イ) 小中学部保護者に対する進路情報の発信の工夫。
 - (5) 特別活動・交流・地域支援
 - (ア) 活発な地域支援。
 - (イ) 交流教育や地域支援についての情報発信の工夫。

III 次年度以降の課題と対応策

- 1 児童・生徒の健康・安全について
 - (1) 教職員を対象とした知的障害の理解や指導法の工夫といった、基本的な研修を実施し、障害理解に基づいた人権に配慮された指導が実践を徹底する。
 - (2) 地震、水害、感染症対策など危機管理体制の充実及び環境整備の推進。
 - (3) 医療的ケアの実施に伴い、あきる野学園学校看護師と十分に連携する。
- 2 児童・生徒の学びについて
 - (1) シラバスの活用を充実させ学習指導要領の内容を網羅した指導を着実に実践する。
 - (2) 社会貢献や地域支援と関連させ、実質的で質の高い経験を土台とした児童・生徒の学びとなるよう務める。
- 3 地域支援について
 - (1) 動物園、団地、地元ショッピングセンター関係者を学校運営連絡協議会委員に据え、連携を強め、より質の高い実質的な社会貢献や作業学習といった学びができるよう積極的に外部折衝を行う。
 - (2) 隣接している羽村高校と松林小学校の両校校長を学校運営連絡協議会委員に据えることにより、児童・生徒が自然で実質的な交流ができるようにする。
- 4 組織体制について
 - (1) 新しいシステム(Teams)を活用できるよう、全教職員に支援を行う。
 - (2) 新規採用者の大量採用という状況を踏まえ、既存の考え方を改め、効果的な働き方について推進する。

別紙「令和5年度学校経営計画重点目標と方策の評価」

〔評価〕の評語について A：申し分なく達成した B：概ね達成した C：やや下回った D：大きく下回った

I 目指す学校	II 中期目標と方策	III 今年度の取組目標と方策		評価	
		1 教育活動の目標と方策			2 重点目標と方策
① 児童・生徒の健康・安全	【児童・生徒の安全を守る】 安全・安心な教育環境、施設設備の整備充実安全対策・事故の未然防止を行い安全・安心な教育環境を確保する。	1 救急救命講習、食物アレルギー対応訓練	各種緊急対応訓練 全員実施	A	
		2 安全対策・事故の未然防止 ヒヤリハット事例の収集・分析 施設の安全改善	150件以上(一人1事例報告)	B	
		3 安全な通学 一人通学指導の推進 高等部段階でも丁寧な指導	全校で10件以上の実施	B	
		4 遊出・行方不明捜索方法のさらなる改善 捜索情報共有ツールの活用	捜索訓練(年2回)	A	
		5 安心を軸とし、実際を想定した避難訓練の実施 避難案内表示や導線の指定	工夫した避難訓練5回以上	B	
		6 地域と連携した宿泊防災訓練の実施 地域へのPR	地域参加者20名以上	A	
	【児童・生徒の健康を守る】 安全で健康的な活力ある生活を送るための基礎を増う。福祉・医療機関等と連携し、保護者の協力のもと、児童・生徒の健康・衛生の保持・増進に取り組む。	7 「TOKYOACTIVE PLAN for students」の方策に基づく児童・生徒の体力向上	体育及び全教育活動	B	
		8 東京都統一体力テスト 小学部は可能な項目・対象者	中学部の該当者 高等部生 100%	B	
		9 歯科保健指導の実施 家庭への還元	小1、小4、中1、高1	C	
		10 精神科相談の実施	11回	C	
		11 医療的ケアに準ずる児童・生徒の安全 本校担当支援校あきる野学園との連携	医ケア安全委員会(年3回)	B	
		12 摂食指導と形態食の提供 摂食研修会 外部専門員による個別の摂食指導研修	全体1回 個別は随時の実施	A	
	【児童・生徒の人権を守る】 児童・生徒の人権を尊重した教育を推進し、体罰を根絶 自殺予防、体罰防止といじめ防止基本方針に基づく、いじめの防止・早期発見に努める。	13 言語環境の適正化 乱暴な態度・ことばによる関わり、実態に合わない過剰な訓練等の禁止	不適切な指導 0	B	
		14 人権研修の取組 体罰根絶・いじめ早期発見と対応 自殺予防の相談、家庭との連携強化	研修会年3回 ミニ研修3回	D	
		15 児童・生徒の呼称の適正化 人権に配慮のない呼称「ちゃん」も含め改善	全員「さん」づけの習慣化	C	
		16 外部専門家(心理士)と連携した児童・生徒の悩み等の相談対応	年間20回	C	
		17 警察・少年センター・関係機関との連携した健全育成の取り組み	随時	B	
		18 学運協委員と連携した健全育成「学校サポートチーム」の充実	年2回	B	
② 児童・生徒の学び	【児童・生徒の可能性を尊重する】 障害特性や発達段階を捉え、保護者と連携して一人一人の可能性を最大限伸ばす。東京都教育ビジョン及び「未来の東京」戦略に基づくデジタル技術を活用した教育を推進する。	19 新しい時代の教育課程【羽村の学び】(シラバス)の活用 授業力向上 合わせた指導	全員研究授業170回 公開研究会	A	
		20 根拠ある指導 アセスメントの実施	随時及び全学年	A	
		21 ICT機器、GIGA端末・一人1台端末の活用 ①全児童・生徒が活用 ②全教員が活用	授業又は家庭学習①②とも100%	A	
		22 O365の活用 オンラインを活用した家庭学習に向けた取り組みの実施	家庭学習でのアカウント活用 80%	B	
		23 工夫された手作り教材を補う、市販の手元教材の充実 貸出コーナーの整備	新教材購入20点以上	A	
		24 教材ライブラリーの充実 教材開発アドバイザーの積極的活用 教材展示会の開催	教材制作研修会 5回以上	A	
	【キャリア教育・進路指導】 態度の育成12年間 ① 小1～小4 『できる喜びを自信に変えて』 ② 小5年～中2 『かけがえのない自分づくり』 ③ 中3・高 『変えていける自分へ』	25 作業学習の授業改善及び在り方の検討 外部専門家による作業学習の改善	改善の取り組み9回以上	A	
		26 小学部・中学部、ライフキャリアへの取組 地域貢献活動(特に重度・重複学級)	小5以上各学年2回以上	A	
		27 高等部、ワークキャリアへの取組(小中学部との連携)進路指導部を中心とした全校研修	進路研修全校1回 高2回 他1回	C	
		28 教職員を含めたビジネスマナー習得(特に新規採用教員や他障害種からの転任教員)	外部講師招聘 または ミニ研修会	C	
		29 羽村セミナー (PTA 学習会)の実施	①3回以上 ②4回以上 ③1回以上	A	
		30 進路に関する情報提供 進路だより 進路情報動画	進路だより5回 動画掲載8回	B	
	【地域と共に育つ】 「暮らし」の中の余暇活動を充実させる。よりよい生活や人間関係を築こうとする態度の育成を目指す。	31 新規実習先開拓	新規実習10件	A	
		32 企業就労希望者就労内定率の維持	90%以上	A	
		33 卒後3年目までの卒業生の状況把握と、関係機関と連携したアフターフォローの実施	状況把握と支援100%	A	
		34 部活動指導の充実と各種大会参加	10回以上	A	
		35 「暮らし」の中の余暇活動を意図した表現活動の充実 展示会等への参加	120点以上	B	
		36 副籍事業の推進 副籍交流の実施(内 直接交流の実施)	130名以上(50名以上)	B	
③ 地域支援	37 近隣の小・中学校との交流活動(オンライン含む) 活動及び行事の保護者への情報提供	交流12回 情報提供 随時	C		
	38 地域と連携した学習活動 ①作業製品の地域販売 ②地域の人々と交流する学習活動	学習活動 ①7回 ②各学年1回	A		
	39 地域別懇談会(学習会)やPTA 地域会と連携した地域ごとの結びつきを強める活動	実施自治体3(6市2町のうち)以上	C		
	40 学校と施設のより良い関係性構築	施設連絡会 2回	B		
	41 児童・生徒とその保護者を支援する放課後等デイサービスとの十分な連携	放デイ担当者会 2回	B		
	42 特別支援教育の推進 理解啓発 ①地域関係機関相談 ②地域関係機関研修 ③教材紹介	①40回 ②30回 ③HP公開	A		
④ 組織体制	43 障害のある人々の地域生活と社会参加を促進 ①本人講座 ②ボランティア養成講座	①3回 ②4回	C		
	44 服務事故・個人情報紛失事故 個人情報を守るためのオンライン活用(紙媒体を減らす)	服務事故0件 紛失0件	D		
	45 保護者の考えの集約と共有 学校評価アンケートの活用 回収率	保護者回収率 80%以上	D		
	46 情報発信の工夫 ①学校HP等による積極的発信 ②わかりやすいプリントの工夫	①年間200回更新 ②20回以上	B		
	47 教職員が互いに理解しあう、OJTの土台作り 若手教員の人材育成を中心とした取り組み	各研修会で年間5回以上実施	A		
	48 仕事と生活の調和の実現 在校時間の自己管理 水曜及びマイ定時退庁日の設定	45時間超 10%以下 定時退庁月4回	A		
	49 男性教員の育休取得の促進	延べ1年間以上	A		